

人権映画会 「万引き家族」を見て

今回『万引き家族』という物騒な題名の映画を観ることになり、ドキドキしておりました。

初めは、おばあちゃん・お父さん・お母さん・叔母さん（お母さんの妹）・息子がいる普通の家族に見えました。そして寒い冬の日、ベランダで遊んでいた女の子を連れて来て、「妹」として扱うようになります。

そんな彼らには現代社会における数々の問題が隠されていました。彼らはおばあちゃんの年金、お父さんの日雇い賃金、お母さんのパート代、さらに、お父さんと子供たちの万引きで生活していました。お父さんは子どもたちに、万引きしか教えられないことがなかったのです。

それでも子どもたちにとっては、一緒に遊んでくれるなど良いお父さんとお母さんでした。おばあちゃんも、家族の変化によく気が付いてくれました。子供たちのために、家族みんなで海へ出掛けた光景は、私の目にもとても微笑ましく映りました。

しかし、それからすぐにお婆ちゃん（お母さん）は亡くなります。

葬式をあげるお金は無く、子どもたちもおばあちゃんとの別れを惜しんだため、おばあちゃんは家の床下に埋めることになりました。

そんなある日、事件が起きます。成長した息子が、駄菓子屋のおじさんから「万引きは」妹には教えるなよ」と忠告を受けたのです。息子はそこではつきりと、万引きが悪いことだと気がきました。

息子は妹が万引きするのを見て、それを庇（かば）おうとして警察に捕まられました。人の目を引く逃亡劇の末、息子は怪我をし、病院に運び込まれました。

お父さんとお母さんは息子のもとへ駆け付けますが、警察からの質問に上手く答えられず、言葉を濁したまま家へ帰りました。ある事情からそのまま逃げようとした彼らもまた、警察に捕まってしまうことになります。

ここで家族の正体が明かされました。独り暮らしの『おばあちゃん』のもとに転がり込んだ男女が『お父さん』と『お母さん』。パチンコ屋の駐車場から連れて来たのが『息子』でした。『叔母さん』は『おばあちゃん』に連れて来られたようです。『叔母さん』の両親は自宅に彼女が居なくても居るように振舞っています。

た。

警察の取り調べを経て、結局、『お母さん』が全ての罪を被りました。偽の家族がバラバラになった後、子供たちは何を思うのでしょうか。独居老人・虐待・教育といったものを、奥深く考えさせられる作品でした。

人権機関有田川委員 林千賀子

人権映画会アンケートから

6月30日（日）、清水文化センターで人権映画会「万引き家族」を開催しました。あいにくの天気でしたが、会場が満席になるほどの方にご来場いただきました。参加された皆さまから感想をいただいたので、一部をご紹介します。

- 育児放棄の問題、8050（ハチマルゴマル）問題、現代の問題を課題にしていると考えさせられた。

50代女性

- 表面はきれいに見えている家族の中の外見を保つあまりに、弱みを見せられないように社会が追いつめているのか、冷たい家族関係の中で子どもがどう傷ついてゆかかを考えさせられました。70代女性
- 大変良かったです。家族のあり方を考えさせられる映画でした。

60代男性

お知らせ

人権特設相談所

8月15日（木）、人権特設相談所を開設します。相談は無料で、秘密は厳守されます。

- 場所／金屋文化保健センター
- 時間／13時～16時

「子どもの人権110番」強化週間を実施

いじめや虐待などの子どもに関する人権相談に法務局職員・人権擁護委員が応じます。相談は無料で秘密は厳守されます。お気軽にご相談ください。

- 日時／8月29日（木）～9月4日（水）の期間中、平日8時30分～19時・土日10時～17時
- 電話番号／0120・007・110（全国共通・無料）

※不明点などは和歌山地方法務局人権擁護課 和歌山県人権擁護委員連合会 ☎073・422・5131まで。

人権に関する問い合わせ

有田川町教育委員会 社会教育課
電話 52・2111
ファクス 32・4827